

# 産婦人科 研修カリキュラム

## 【科の紹介】

産婦人科救急疾患を含む、周産期医療、腫瘍、感染症など、産婦人科全般の診療を行っている。急性期病院の役割を担うため、365日24時間患者の受け入れを行っている。婦人科癌の認定施設(県内では大学と当院のみ)であるのみならず、地域周産期母子医療センターの認定(大学と県総と当院の3施設)も受けている。腫瘍部門では悪性腫瘍を多数取り扱い、手術、化学療法、放射線治療、緩和医療などの集学的治療を行っている。良性疾患には積極的に腹腔鏡下手術を実施している。周産期医療も紹介患者に限定し、ハイリスク妊婦のみを扱っている。また自科麻酔を行っている。最近、婦人科癌、腹腔鏡下手術、緊急患者搬送が急増中である。

## A. 一般目標

産婦人科救急疾患を含めて、産婦人科全般にわたる研修を行い、産婦人科医療の特殊性を理解する。産婦人科では、特に、将来の専攻科に関わらず基本的な臨床能力の取得の1つとして婦人科疾患を有する患者や妊娠中の患者を適切に管理できるようになるために、妊娠分娩と婦人科疾患の診断、治療における基本的な問題解決策力と臨床能力技能・態度を身につける。

## B. 行動目標

### 1. 産科

- 1) 正常な妊娠、分娩、産褥の経過、それに関連した処置を理解する。
- 2) 妊婦の定期健診ができる。
- 3) 超音波診断法によって胎児計測を行い、胎児の評価ができる。
- 4) 妊娠中に起こりうる異常(妊娠悪阻、流産、子宮外妊娠、胎状奇胎など)を理解する。
- 5) 切迫流産、切迫早産の応急処置ができる。
- 6) 正常な分娩経過を理解し、陣痛観察、分娩の進行度の観察ができる。
- 7) 分娩の介助法が理解できる。
- 8) CTGにて陣痛・胎児心拍の計測ができ、その異常が指摘できる。
- 9) 妊娠中、母児双方の安全性、必要性を考慮した薬物療法ができる。
- 10) 会陰切開を行い、その縫合ができる。
- 11) 児娩出の介助、児の処置、臍帯・胎盤の処置ができる。
- 12) 帝王切開の適応を判断できる。

### 2. 新生児

- 1) 新生児の日常的ケアができる。
- 2) 新生児のスクリーニング検査ができる。

### 3. 婦人科

- 1) 内診所見により、子宮・卵巣の腫大がわかる。
- 2) 腔鏡を用いて、子宮・腔部細胞診が実施できる。
- 3) STD(性行為感染症)についての知識、検査、治療がわかる。
- 4) 良性腫瘍(子宮筋腫、子宮内膜症、良性卵巣腫瘍など)の診断治療を理解し、手術の方法がわかる。
- 5) 悪性腫瘍(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌など)の診断、治療についての一般的な知識をもつ。

- 6)子宮脱、下垂の治療、手術がわかる。
- 7)更年期障害など、女性の心身症についての知識をもつ。
- 8)基礎体温の意味を理解し、避妊法について説明できる。

#### 4. 共通

- 1)正確な全身所見、外診所見を取ることができ、それをその他の医療者に報告できる。
- 2)手術のリスクを評価できる。
- 3)術前・術後管理を行うことができる。
- 4)術後合併症の診断・治療ができる
- 5)婦人科救急疾患の診断を行い、専門医にコンサルトすることができる。

#### 5. 経験すべき症候・疾病・病態

##### 1)経験すべき症候

外来または病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、基本的な検査所見に基づく臨床推論と病態を考慮した初期対応を行う

- a. ショック
- b. 腰・背部痛
- c. 排尿障害
- d. 妊娠・出産

#### C. 指導体制

1. 産婦人科医師は指導責任者として、ローテーション期間を通して研修の責任を負う
2. 患者の診察、検査、治療に関する直接的指導は主治医(指導医)が行う。週毎に交代する 6 人の指導医・研修協力医によって、マンツーマン指導を行う。
3. 定期的に研修医の研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修医に指示を与えるか直接指導を行う。

#### D. 研修方略

##### 1. オリエンテーション

- 1)研修カリキュラムの説明
- 2)科の概要
- 3)受け持ち患者の割り振りと患者説明

##### 2. 具体的な研修方法

- 1) 週毎に交代する 6 人の指導医・上級医とともに、マンツーマン指導で、外来、病棟、手術などの医療行為を行う。
- 2) 産婦人科救急疾患である卵巣腫瘍の茎捻転、卵巣出血、異所性妊娠などの診断、治療を行う。
- 3) 帝王切開術の麻酔および基本的な開腹法、縫合を経験する。また病棟回診にて術後管理を受け持つ。
- 4) 婦人科手術および術後管理を行うとともに、婦人科癌化学療法、放射線治療について経験する。
- 5) 産科領域の救急、流産の応急処置、正常分娩の見学、介助を行う。
- 6) 妊産婦、褥婦の出血に対する応急処置を行う。
- 7) 基礎体温、尿検査、超音波検査などにて妊娠初期診断を行うとともに、妊婦健診時の診察、見学を行う。特に、経膈および経腹超音波診断に精通する。
- 8) 産婦人科外来ドック検診にて、膣鏡診のトレーニング、経膈超音波検査、細胞診検査を行う。

- 9) 手術日である火曜、木曜は研修をしていただきたいので、月曜、水曜は病院当直をされないようご協力をお願いします。

【週間スケジュール】

	午 前		午 後
月曜日	8:00～カンファレンス 外来診療、病棟回診		外来診療、病棟回診 16:00～術前検討会、放射線治療検討会 17:00～周産期検討会、その後抄読会
火曜日	8:00～カンファレンス 病棟回診	9:00～ 手術	手 術
水曜日	8:00～カンファレンス 外来診療、病棟回診		外来診療、病棟回診
木曜日	8:00～周産期テレビ カンファレンス 8:30～カンファレンス 病棟回診	9:00～ 手術	手 術
金曜日	8:00～腹腔鏡テレビカンファレンス 8:30～カンファレンス 外来診療、病棟回診		外来診療、病棟回診

毎朝 8:00～ カンファレンスは 3F オープンカンファレンス

月曜 16:00～ 術前検討会はオール医局

月曜 17:00～ 周産期検討会は手術室入口カンファレンス1

抄読会は 5F オープンカンファレンス

火・木以外にも手術があります。分娩はいつあるかわかりません。また、救急症例が搬送されます。携帯などで、連絡がつくようにしてください。また、時間外待機もお願いしています。

【カンファレンス・勉強会】

上記スケジュール参照

【定例研修会等】

会 名	世話人	開催曜日	会 場
三地区産婦人科勉強会	小 原	年 6 回	伊勢医師会館
悪性腫瘍研究会	池 田	年 1 回	不 定
周産期研修会	池 田	年 1 回	不 定
三重県産婦人科医会研修会	二 井	年 4 回	不 定

E. 研修評価チェックリスト

1. 産科

- 正常な妊娠、分娩、産褥の経過、それに関連した処置を理解できる。
- 妊婦の定期健診ができる。
- 超音波診断法によって胎児計測を行い、胎児の評価ができる。
- 妊娠中に起こりうる異常(妊娠悪阻、流産、子宮外妊娠、胎状奇胎など)を理解できる。
- 切迫流産、切迫早産の応急処置ができる。
- 正常な分娩経過を理解し、陣痛観察、分娩の進行度の観察ができる。
- 分娩の介助法が理解できる。
- CTGにて陣痛・胎児心拍の計測ができ、その異常が指摘できる。
- 妊娠中、母児双方の安全性、必要性を考慮した薬物療法ができる。
- 会陰切開を行い、その縫合ができる。

児娩出の介助、児の処置、臍帯・胎盤の処置ができる。

帝王切開の適応を判断できる。

## 2. 新生児

新生児の日常的ケアができる。

新生児のスクリーニング検査ができる。

## 3. 婦人科

内診所見により、子宮・卵巣の腫大がわかる。

腔鏡を用いて、子宮・腔部細胞診が実施できる。

STD(性行為感染症)についての知識、検査、治療がわかる。

良性腫瘍(子宮筋腫、子宮内膜症、良性卵巣腫瘍など)の診断治療を理解し、手術の方法がわかる。

悪性腫瘍(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌など)の診断、治療についての一般的な知識をもつ。

子宮脱、下垂の治療、手術がわかる。

更年期障害など、女性の心身症についての知識をもつ。

基礎体温の意味を理解し、避妊法について説明できる。

## 4. 共通

正確な全身所見、外診所見を取ることができ、それをその他の医療者に報告できる。

手術のリスクを評価できる。

術前・術後管理を行うことができる。

術後合併症の診断・治療ができる

婦人科救急疾患の診断を行い、専門医にコンサルトすることができる